マッチ製造作業　(明治後期)
明治9年頃、神戸でマッチ製造が始まり、同10年代には多くの工場がつくられ、神戸を代表する輸出産業となった。

居留地倉庫、デラカムブ商会　(松尾ふみ氏蔵)
輸出用花むしろが積みあげられている。陶磁器等とともに有力な輸出商品であった。

茶の包装作業、ヘリア商会　(明治中期、藤田よしえ氏蔵)
茶（緑茶）は、明治20年まで神戸港で輸出第1位を占め、ムーリルヤン・ハイマン商会、スミス・ベーカー商会などが取り扱った。

輸出マッチラベル　(明治～大正、日本燐寸工業会蔵・神戸市立博物館蔵)
明治11年から輸出が始まり、同35年にはアメリカに次いで輸出額第2位を占めるまでになった。輸出に当たっては、当初から華僑が活躍し、中国、インド向けが多かった。

居留地商館、サミエル・サミエル商会　(柴田音吉氏蔵)
明治28年頃建築、保険業のほか鉄製品、洋反物等の輸入、雑貨等の輸出を取り扱った。

輸出茶商標　(明治、神戸市立博物館蔵)
西日本各地の茶が神戸に集められ、火入れされたのち主にアメリカなどへ輸出された。